
イギリスに弓矢を担いでいったら殺されるらしい

宇ノ鹿 すい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イギリスに弓矢を担いでいったら殺されるらしい

【Nコード】

N3887N

【作者名】

宇ノ鹿 すい

【あらすじ】

ああああああああああああああああ

「近頃どうにも暇。何か退屈を紛らわすことはないのかな」

退屈嫌いの男は七十五歳。昔は警察にお世話になったこともある、人騒がせな男であった。

大きな池のある公園で、彼は一人の気が弱そうな男性を標的にして、近づいた。

ベンチに座っている青年は標的にされていることなど知らず、ノートパソコンをいじくり、インターネットで雑学サイトを呑気に閲覧していた。

「ちよつとちよつと」

青年は、見も知らぬ老人から突然話しかけられたということで、当然警戒もしたし嫌悪もした。だが気が弱い彼は、自然とアウトプットされる仕組みになっている愛想笑いを浮かべてしまうので表面的には嫌悪も警戒もまるで皆無である。端から見れば、青年が老人を歓迎しているようにも見えたかもしれない。それ程に青年の微笑には、愛想が含まれているのだった。

愛想に気を良くしたお騒がせ老人は、調子に乗って、空いている青年の隣へと腰を下ろした。颯爽とした軽い身のこなしである。その素早い動きによって、青年には老人が六十代くらいの初老に見えた。

だが実際には七十五歳である。

「何か退屈を紛らわすことはないかねえ」

その一言に青年は苦笑して、

「そんなものありませんよ」

と答えた。

「そうなのかい。だけど、昔はねえ、特に俺なんか…」

そこからは老人の独壇場であった。ぺらぺらぺらぺらである。青年は何度か口を挟もうと思ったがそんな隙さえも老人はまるで彼に与えず、己の武勇伝を淀みなく語る。二十歳のときには熊と戦い、三十歳の時には鹿と闘って、四十歳のときには馬と戦い、五十のときには驚と戦い、六十の時には人間と戦い、七十になった今は、戦う相手を丁度探しているところだ、ということをお老人は語った。意味不明だったが、青年は愛想笑いを一度も絶やさなかったため、老人は気をよくした。

「今年で七十五歳だ。そのおかげで、警察からは俺の、摂取されていた指紋が無くなるんだから。だからかな、なんだか自由になった気分だからよ。今なら何でも出来る気がしてならねえんだ」

青年は雑学サイトを閲覧しながら、

「じゃあイギリスに弓矢を担いで行ってみたらどうですか」

と言ってみた。老人は不思議そうな顔をして、

「イギリスう？」

と唸ったが、しかし考え込んだような顔をした後に、

「いや、それも悪くねえかもなあ」

などと、わかってるんだかわかってないんだか、意を当てづらい表情をして青空を見上げた。

青年と老人はそれで別れた。

老人が急ぐようにして立ち去ってしまったからである。颯爽とした足取りはしっかりしたものであった。

それから一カ月後、老人は全身に包帯を巻いたミイラ状態になって、公園にやってきた。

先日の青年は思わず笑ってしまった。

「生きていたんですね」

青年は老人に話す。

「みんなして俺を殺そうとしやがった。弓矢を担いでただけなのに」

「武勇伝が追加されたではありませんか」

老人はそれを聞いて目を丸くしたが、すぐに大笑いした。

「あつははは。七十歳で俺は、イギリス国民と戦ったということだ。いいねえ、スケールがでかいねえ」

「八十歳になったら、北朝鮮なんてどうです？」

彼はパソコンのディスプレイを老人に見せた。

「うーむ」とさすがに老人は悩んだ。

「いや、さすがに危ないかなあ」

老人は苦笑いをしながら青年の隣に腰を下ろした。
すると、

「僕が連れてってあげますよ」

青年は、サングラスを装着した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3887n/>

イギリスに弓矢を担いでいったら殺されるらしい

2011年11月13日12時16分発行